

本校は、学力、意欲など多様化した生徒に広く門戸を開き、一人ひとりの能力に応じた指導を行い、有能な工業技術者を育成するため、今年度も継続して、基礎・基本の定着を図るとともに、自ら学ぶ意欲と人権尊重の理念に基づいた豊かな人間性の育成に重点を置き、都民や地域社会から信頼される魅力ある学校づくりを推進してきた。

1 今年度の取組状況と自己評価

(1) 学習指導

- ① 1学年は国語、数学、英語で習熟度別授業を行い、個に応じた授業を展開して基礎学力の向上に努めた。また、各種検定の取得を奨励し、工業科(建築工学実習・情報技術基礎・課題研究)の授業は資格取得にも対応した授業を実施した。計算技術検定3級は希望者に受験させるなど基礎・基本の定着を図った。
- ② 資格取得は、計算技術検定において、3級2名、4級10名が合格した。また、高所作業者特別教育16名、小型移動式クレーン技能講習1名、日本語ワープロ3級2名、4級5名、丸のこ等取扱い作業従事者1名が合格した。資格取得者総延べ数56名となった。しかし、第二種電気工事士を受験する生徒の育成までには至らなかった。また、「課題研究」について、今年度は作品展示を中心に発表も行った。
- ③ 授業規律の徹底を図り、授業中の携帯電話の使用及び飲食の禁止、筆記用具の持参、カード・ゲーム類の持ち込み禁止など、新入生を中心に指導を行った。授業規律は、概ね良好であった。

(2) 進路指導

- ① 進路の内定状況は、卒業生11名中、専門学校進学2名、企業等への就職8名、家事手伝い1名であり、進路決定率100%達成できた。
- ② キャリア教育全体計画に基づき、1・2年生をはじめ3・4年生に対し進路希望の実現を支援した。生徒への進路情報の提供と進路意識の啓発を目的に、ハローワーク職員による進路説明会と職業適性検査を実施した。資格取得や課外活動の参加を促し、本校で学んだ内容を活かすことができる進路を選択するようになってきた。本校卒業生が就職した企業と連携して左官実習を実施し、望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒が主体的に進路選択できる力を育む一助とすることができた。夏休みの最終週には進路セミナーを4日間実施し、一人ひとりの進路希望の実現に向けた指導を行った。
- ③ ものづくりマイスター等を招き、専門技術・技能の講演会・講習会等を実施するとともに、今年度は、就職者の進路先における状況調査を初めて実施した。

(3) 生活指導

- ① 多様な学習歴をもつ生徒に対し、信頼関係の構築及び個別の課題を明確にするために面談を重視した。特に、1年生全員に対して入学後に面接を実施するとともに、担任と生活指導部等が連携を図り、必要に応じて随時面談を行った。また、スクールカウンセラーによる全員面接やグループエンカウンター(3回)も実施した。他学年に関しても担任と生活指導部が情報を共有し、共通理解を図った上で生活指導を行った。
- ② 問題行動の未然防止のために、全校集会等で繰り返し注意喚起を行うとともに、必要に応じて巡回指導を行った。問題行動発生時には、教職員間の情報交換及び共通理解を図り、スクールカウンセラー、保護者と連携し、協力を得て特別指導を行った。
- ③ 中途退学者は1年生5名(29%)、2年生2名(14%)、3年生0名(0%)、4年生0名(0%)であり、昨年(4名)よりも増加した。

(4) 特別活動・部活動

- ① スポーツ大会や蔵工祭などの行事は、担任及び生活指導部の指導の下、生徒が積極的に関わり、学校行事参加率85%の結果からも、達成感や満足感が得られた。特に、スポーツ大会は体力向上推進計画を踏まえ、5月と12月に2回実施した。
- ② 部活動は25名が加入(48%)している中、陸上部2回(全国大会出場)、自転車競技部2回、公式戦に出場した。特に、自転車競技部は5年連続で全国大会に出場した。
- ③ 「オリンピック・パラリンピック教育」の推進に向けて、あらゆる教育活動の場で、組織的に取り組み、意欲の向上を図った。

(5) 健康づくり

- ① 7月に実施した薬物乱用防止教室では、蔵前警察署より講師を招き、薬物乱用防止に関するビデオ上映と講演等を行った。
- ② 3月に実施したセーフティ教室では、KDDIと連携し、スマートフォン等の安全な使い方についてビデオ上映と講話を行った。スマートフォン等を使用するルールを守り、十分安全に気を付けなければならないことを学んだ。
- ③ 年4回の避難訓練と防災講話を実施した。7月に実施した防災講話では、防災教育コンサルタントの方から、災害に備えた準備や考え方について学んだ。

(6) 募集・広報活動

- ① 中学校訪問を17校実施し、学校だよりを8回発行するなど、教育活動を周知した。
- ② 学校説明会を4回実施し、生徒12名及び保護者15名(昨年は合計38名)の参加を得た。個別相談も丁寧に対応した。第一次募集では、昨年度11名より3名少ない8名の生徒が受検した。
- ③ 一日体験入学はHPに掲載するとともに、近隣の中学校に案内を送り、中学生4名、保護者5名の参加を得、設備や授業見学、実習体験(建築模型の製作)を行った。

(7) 学校経営・組織体制

- ① 校内研修は、個人情報保護・サービス事故防止・いじめ防止等を実施した。
- ② 教職員の共通認識を図るとともに、円滑な学校経営に努めた。
- ③ 今年度の教科「人間と社会」は、障害者福祉分野、環境保全分野、防災・災害救援分野をはじめ、多岐にわたる内容で生徒一人ひとりの社会貢献意識を培おうと努めた。

2 次年度以降の課題と対応

今年度も基礎・基本の習得を通して基礎学力の定着を図るとともに、資格取得指導に努め、学習意欲の向上を目指した。その結果、授業評価や学校評価アンケートの結果は概ね良好であった。また、退学者は7名であり、昨年度(4名)を上回ることとなった。次年度以降も、学習意欲の向上、退学者0を目標とし、以下に示す取り組みによって改善を図る。

- ・国語、数学、英語の習熟度別授業を継続実施するとともに、補講や期末考査前後の補習を行い、授業に取り組む意欲及び基礎学力の向上を図る。
- ・生活指導統一基準「身に付けさせる規律・規範」に関する全体計画のもとに授業規律の徹底、授業時間の確保を図る。
- ・生徒のメンタルヘルスケア及び保護者の相談等に対応するため、全員面接の実施をはじめ、スクールカウンセラー等の有効活用を進める。
- ・資格取得を通して、生徒自らが主体的に学ぶ態度を育成する。
- ・学校だよりを定期的に発行し、近隣自治会への配布やホームページの充実などを通して、広く本校のPR活動を推進する。
- ・キャリア教育全体計画に従い、HR活動や面談を通して自己の生き方・在り方や望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、基礎学力の定着を図り、生徒全員が希望する進路を実現させる。